



令和8年度 9月号 令和8年8月27日

新治小学校だより

みつめる かかわる かんがえる



にいはるん

経験がつなぐ確かな学びへ

校長 古屋 澄人

今年の横浜の8月は平均気温27.3℃と、記録的な猛暑だった昨年に比べると幾分過ごしやすく感じられる日もありました。横浜市気象観測結果では、新治町周辺は熱帯夜が少なく「夜が涼しい地域」と報告されていますが、それでも日中は厳しい暑さが続き、子どもたちにとっても「十分にあつい夏」であったことと思います。

さて、夏休み前の朝会で子どもたちに「夏休みにしかできない『ホンモノ』に出会おう」という話をしました。「ホンモノに出会う」とは、教科書やタブレットの画面上で見るだけでなく、自分で見て、聴いて、触れて、味わうなど、体全体で感じ取ることです。この夏、子どもたちはどのような「ホンモノ」に出会えたでしょうか。



学校や地域でも、素敵な体験がありました。総合的な学習の時間で「地域の行事を盛り上げたい」という思いを抱いていた6年生は、新治町自治会の皆様のご協力のもと夏祭りに参加しました。猛暑と不安定な天候の中でしたが、15時からの事前準備、お店の販売手伝い、アナウンス、そして5年生の時から取り組んできた「ソーラン節」の披露まで、最後までやり切ることができました。地域の一員として役割を果たした充実感と共に、お祭りを大切に守り続ける役員の方々の熱い思いを肌で感じ取った貴重な一日となりました。

アメリカの教育学者ジョン・デューイは、「子どもは経験を通して学ぶ」と説きました。また、単に体験して終わりにするのではなく、「なぜだろう」「次はどうすればいいだろう」と「振り返り」、「考える」ことで学びはより深く確かなものになると述べています。

学校における現在の学び方についても同様です。教科書やデジタル端末での知識学習に加え、自然体験や地域との交流、友達との対話といった「実際の経験」を重ねることで、知識と経験が結びつきます。子どもたちの学びは「知っている」から「わかる」、そして「できる・やってみたい」へと大きく広がっていきます。「経験を通して学ぶ」というプロセスを大切に教育活動を進めていきます。

夏休み期間中、校内の環境整備を進めました。体育館を含む全教室のLED照明工事を実施しています。教室は目にやさしい明るさとなり、体育館もスイッチを入れるとすぐに点灯するため、使い勝手が大きく向上しています。また、職員の手で教室の床のワックスがけも行いました。ぴかぴかになった環境で、気持ちよく夏休み明けを迎える準備が整っています。一方で、夏休み明けは生活リズムの変化や学校生活への不安から、心身の不調が出やすい時期でもあります。子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添い、安心して9月を過ごせるよう全職員で見守ってまいります。